

部長の開会の御挨拶を頂き、いよいよ戦闘モードです。

『おもてなし軍団』の女性の先生方は、テキパキと動いて談話室の机の上にお菓子やみかんを揃え、メニュー表を書き壁に貼り、あつという間に『会館カフェ』が出来上がりました。

お寒い中お見えの先生方に、「美味しいお茶を。」と皆が思い、コーヒーはこのスプーンで一杯、レモンティーは：ココアは：と皆で味をみて、納得した美味しい味になりました。

研修部の先生方は、賢明でお優しい方の集まりだと思えました。いつ先生方が談話室にいらしても大丈夫の状態です。

十二時になり受付開始です。受付担当はお三人の男性の先生方です。お寒い中、二時間半本当に有難うございました。大変でございました。

二階はすべて業者の売り場になっております。その二階の販売状況が一段落した二時頃、業者の皆様にお茶をお出しし喜ばれました。お疲れの中での一杯は心と一杯だった事でしょう。

談話室は一階に二部屋ございましたが、皆様楽しんで和やかにお話なさっていらつしやいました。ゆつたりとした雰囲気は、いかにも談話室という感じでした。

時間は瞬く間に過ぎ三時でした。もう閉会式です。支部長の御挨拶の中で「百六十一名の静岡県支部の会員の八割くらいが、参加するようなの会にしなればと考えております。」とおつしやったのが印象的でした。

御挨拶ののちすく、二階は男性の先生方、一階は女性の先生方がさつと片付け、予定通り四時には反省会を行い、五時頃退館する事が出来ました。

御参加下さいました先生方、又この日の為に色々とお苦勞下さいました先生方、そして徳増部長はじめ研修部の先生方、本当に有難うございました。

無事終わりましたこと感謝申し上げます。楽しく幸せな一日でした。

無事終わりましたこと感謝申し上げます。楽しく幸せな一日でした。



魔方陣の思い出

沼津地区 榎原 幹雄

私の生れた浜松市は活気のある町でした。実家は駅より東南方向、子供の足で十五分程の距離です。

駅からは東循環バスで工業試験場前バス停前にハマヤ商店があります。

この家の長男として生まれました。大正時代の初期は萬屋さんでした。隣近所には商店が立ち並んでパン屋、菓屋、果物屋、魚屋、お酒屋、呉服屋、八百屋他何でも近回りで用がたせました。

実家で扱った商品はタバコ、化粧品、文房具、荒物雑貨(その他切手、はがき、収入印紙近くに郵便局がなかったため)父親は国鉄に勤めていた関係で母親は朝早くから食事の仕度から店の仕事といそがしく働いていました。暇が出来ると何でも教えてくれました。

母の祖母から教わった事だがと前置きがあり方陣(三方陣)の作り方は語呂合せで、ニクシトオモヘバ七五三口クハノナカハタダヒトツ 29453618、縦横斜めを計算すれば答えが全部十五になる。私はこれを最初に考えた人はすごいという思いがありました。いつしか忘れてしまえば後年晩出版で発刊した安部元章先生の著書「数を楽しむ」にも、三

方陣、四方陣が出て来ています。

それから十数年後中国の歴史小説書で作者は金庸「射鵰英雄伝」全五巻のうち四巻目、雲南大理の帝王中、第二十九章、黒沼の女の所に本書の主役、郭靖と黄蓉が登場します。

部屋に入った女の後をついていくと部屋の中には沙(砂)が一面に敷きつめられてあり、沙の上にはさまざまな符号とそれに「大」「天元」「地元」「人元」「物元」などの字が書いてある。郭靖にはなんのこともさっぱり分からなかったが、とにかく踏んではいけないと部屋の前に立ったまま中に入らない。黄蓉は子供の頃から父親に教わって数学は得意である。地面に符号と字を見るとすぐにそれが算経に言う「天元術」「四元術」であることに気がついた。これは今日の代数学で言うところの多元多次連立方程式のことである。いわゆる「天元」はX「四元」はXYZWなどの未知数に相当する。黄蓉の腰から竹棒を取り出すと、郭靖にもたれかかりながら沙の上に数学を書きその方程式をあつという間に解いてしまった。女は驚いて黄蓉を見た。「あなたは人間?」「女はこの方程式を解きあぐねていたにちがいない。黄蓉は得意そうに言った。

天・上・高：は $X \cdot X^2 \cdot X$ を地・下・低は $X \cdot X^2 \cdot X^3$ を意味する。それを聞くと女はがつくりきたように肩を落としそのまゝ